

5月の安全運転のポイント

平成25年5月号

道路は多くの車や人が利用しています。安全で快適な走行を確保するためには、相手の状況や立場を考えたマナーのよい運転をすることが大きなポイントとなります。そこで今回は、運転マナーについて考えてみることにしましょう。



運転マナーの基本

交通ルールを遵守する

マナーの悪い運転としてよく取り上げられるのが、合図を出すと同時に進路変更して強引に割り込む行為、車間距離をつめて前車を圧迫する「あおり」行為、威嚇するようなクラクション、窓からのごみの投げ捨てなどです。こうした行為は、マナーが悪いという以前に、交通ルールに違反する行為です。

道路交通法において、進路変更時の合図は進路変更する3秒前（施行令第2条）、前車が急停止しても追突を避けられるだけの車間距離の保持（法第26条）、法令で使用することが定められている場合や危険防止のためにやむを得ない場合以外のクラクションの使用の禁止（法第54条）、進行中の車両から物件を投げることの禁止（法第76条）が定められています。

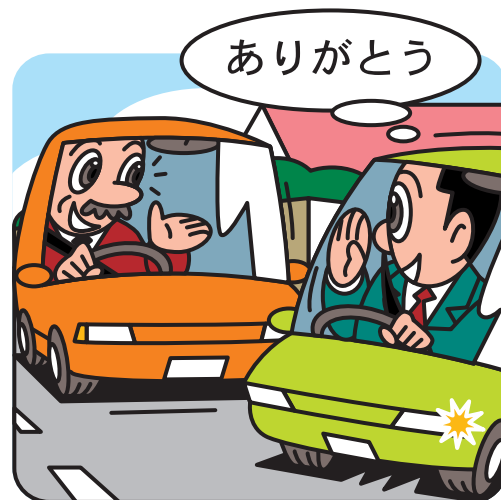
マナーの悪い運転はルール違反と背中合わせです。マナーのよい運転をするためには、まず、交通ルールを守ることが基本となります。



相手の状況や立場を考えた運転をする

相手の状況や立場を考えた運転とは、「譲り合い」や「思いやり」のある運転のことであり、そのためには自分優先の意識を抑え、状況に応じて相手に譲ることがポイントになります。相手を自分の走行を妨げる邪魔者だと思ふ意識からは、「譲り合い」や「思いやり」の気持ちは生まれず、合流したがっている他車を入れないとか、相手に道を譲らないといった運転になりがちです。それが強引な割り込みなどの危険な行動を誘発し事故につながることも少なくありません。

相手が車であれ歩行者であれ、同じ道路を利用する交通パートナーとして、常に相手に気を配った運転を心がけましょう。





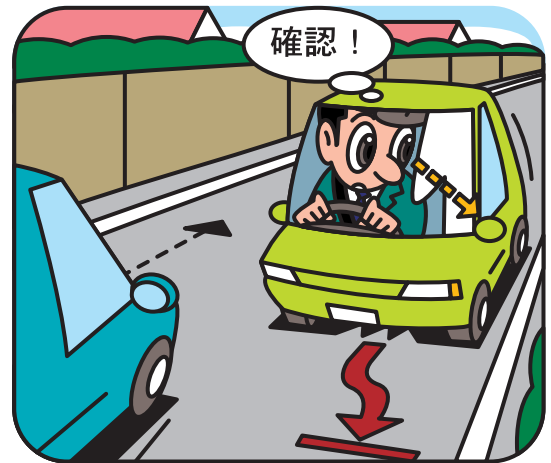
マナーのよい運転を実践する際の留意点

すれ違い時に左に寄るときは左端の状況を確認する

狭い道路で対向車が接近していて、そのまま進行すると接触するおそれがあるときは、相手が止まるだろうとは考えずに、自分のほうが左に寄って停止し相手を先に行かせるようにしましょう。

ただし、左に寄るときには道路端に置かれた看板や工作物などに接触しないか、後方から自転車や歩行者が接近していないかなどをよく確認しましょう。また、トラックなど車体の高い車は上方にある看板やひさしにも注意しましょう。

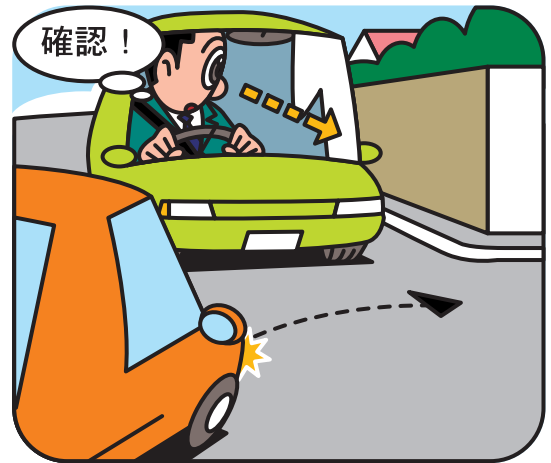
狭い坂道ですれ違うときは、上りのほうが発進が難しいため下りの車が停止して上りの車に道を譲りましょう。ただし、片側が転落のおそれがある崖になっている場合には、崖側の車が停止して相手に道を譲りましょう。



対向右折車に道を譲るときは左後方を確認する

片側1車線の道路において対向車が右折待ちで停止している場合、対向車が右折できないとその後ろの車が先へ行けずに渋滞してしまうことがあります。そのような場合、停止しても後続車に追突されるおそれがない場合は、できるだけ停止して対向車に道を譲り先に右折させてあげるようにしましょう。

ただし、自車の左後方の状況を確認しないまま道を譲ると、対向車が右折していくときに左後方から進行してきた二輪車などと対向車が衝突する危険がありますから、必ず左後方を確認してから譲るようにしましょう。

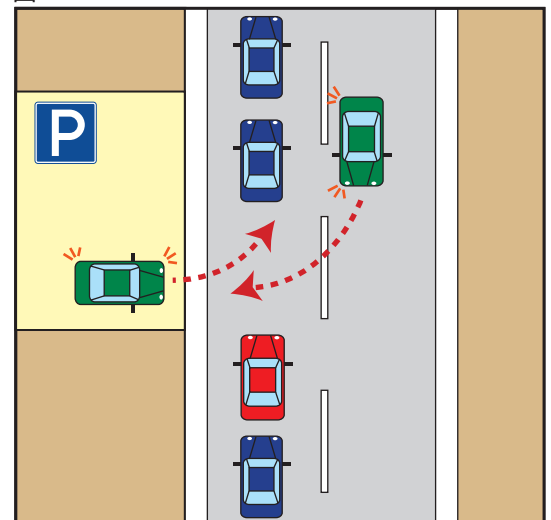


道路外施設の出入口付近で停止するときは道を空ける

赤信号や渋滞により、駐車場やガソリンスタンド、レストランなどの道路外施設の出入口がある付近で停止するときは、そこから出てくる車やそこへ入っていく車のことを考えて、車が1台通行できるくらいのスペースを空けて停止するとよいでしょう(図1)。

また、脇道がある場合はそこへの出入りを塞がない、横断歩道がある場合は横断歩道に入らないということも大切なことです。

図1



「ご相談・お申込先」